

## 長野県キャリア教育支援センター事業等について

長野県教委委員会 教学指導課

## 事業目的

## ○ 背景及び課題

## (1) 子どもたちの実態

身体的な早熟傾向に比べ、精神的・社会的な自立が遅れる傾向。職業選択、職業決定の先送り傾向、進路意識や目的意識の希薄化、勤労観、職業観、社会性の未熟さ

## (2) 学校の課題

幼保・小・中・高等学校の活動相互の関連性や系統性が不足

## (3) 社会の課題

低年齢層の離職率の拡大、フリーターやニートが増加



## ○ 目的

「長野県キャリア教育ガイドライン」（平成23年11月策定）に基づき、社会的・職業的に自立した人間の育成をするために、地域・社会や産業界が学校を支援する仕組みを構築し、幼保・小・中・高一貫した体系的なキャリア教育を推進する。

## 主な事業内容

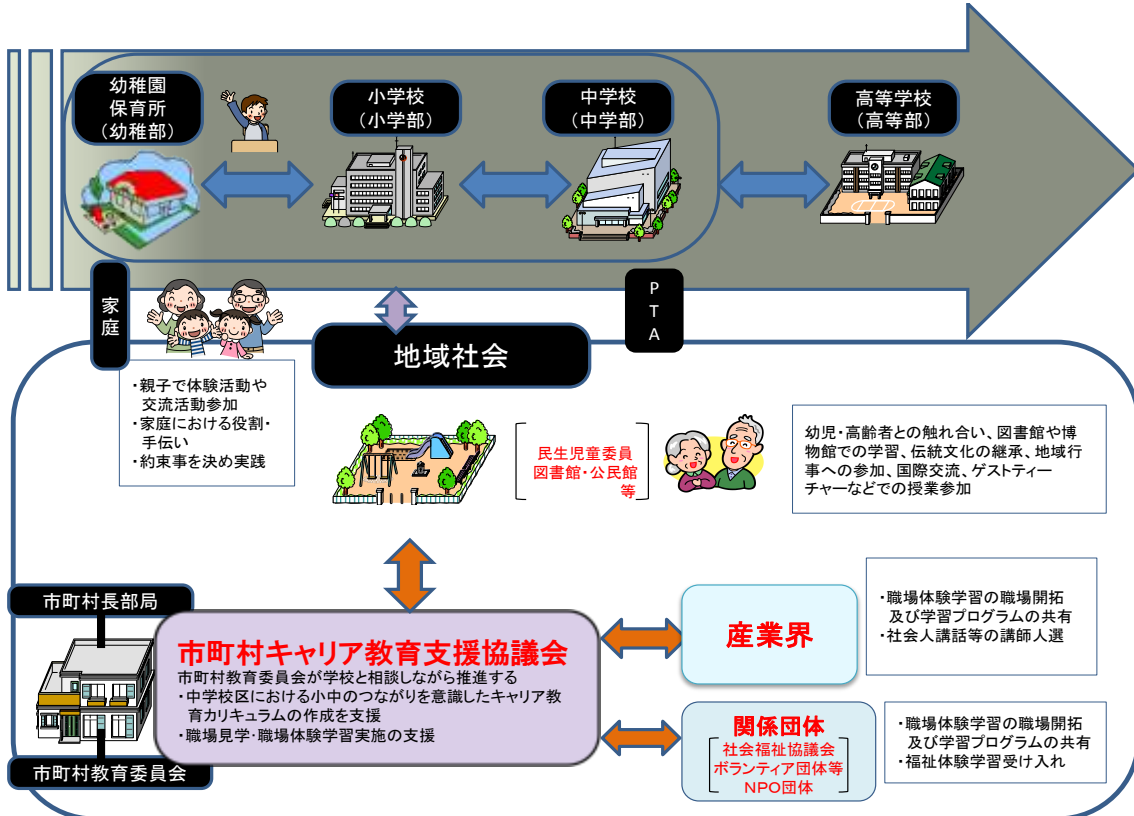
事業名	内 容
1 長野県キャリア教育支援センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校、地域、社会や産業界が一体となったキャリア教育の推進を図る。</li> <li>・家庭、地域の教育力を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組（プラットフォーム）を市町村に構築する。県レベルでは産学官等の諸機関、諸団体が連携する組織を作る。</li> <li>・学校が望む支援と産学官の諸機関が提供できる支援とを結びつけることで高校生の就業体験を推進する。</li> </ul>
2 学校・生徒支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校が地域・社会や産業界と連携したキャリア教育を推進するための支援【先導的カリキュラム改革支援事業】</li> <li>○進路目標が明確でない高校生、学校生活に悩みや不適應傾向のある高校生を支援【社会的自立支援事業】</li> <li>○就業体験保険料補助【ずく出せ修行就業体験事業】</li> </ul>
3 子育て理解教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校生が、子育てに関する貴重な体験として、乳幼児とふれあう事業を促進する。小さな子どもを相手にするため、生徒に対して体験活動保険の補助をする。</li> </ul>
4 未来をつくる協働事業(国庫委託)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中・高校生の社会参画意識を高め、主権者として自立するための基礎的な能力や態度を育成することを目指す</li> <li>・地域の抱える課題について、その解決に向け地域の関係者等と連携した体験的・実践的な学習活動を行うための教科横断的なプログラムを開発する</li> </ul>
5 地域キャリア教育支援協議会設置促進事業(国庫委託)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア教育アドバイザー配置による産・学・官連携、幼保・小・中・高連携のキャリア教育</li> <li>・職場体験・インターンシップ受入先の開拓やマッチング</li> <li>○キャリア教育シンポジウム・キャリア弁論スピーチコンテストの開催</li> </ul>

# 1 長野県キャリア教育支援センター事業

## (1) 長野県キャリア教育支援センターの仕組み（平成24年度設置）



## (2) 市町村キャリア教育支援協議会を中心とした学校を支える仕組み（プラットフォーム）



### (3) 長野県キャリア教育支援センターの取組

#### ① 学校が地域・社会や産業界と連携したキャリア教育を推進するための支援

##### ア 産業界等と連携し、職場見学・職場体験（小中学校）、就業体験（高等学校）の推進

・小学校 職場見学実施状況（H23～25年度）

年度	H23	H24	H25	H26
職場見学実施率（%）	73.8	77.6	79.3	79.2

・中学校 職場体験学習状況（H23～25年度）

年度	H23	H24	H25	H26
職場体験実施率（%）	99.5	100	100	100
3日以上の職場体験実施率（%）	47.9	57.8	60.1	60.1

・高等学校 就業体験者数（H23～25年度）

年度	H23	H24	H25	H26
就業体験者数（人）	4,805	6,865	7,778	8,640

#### イ 市町村プラットフォームの推進と活動支援

\*「プラットフォーム」とは、市町村教育委員会が学校と協力し、家庭・地域の教育力を活用した学校のキャリア教育を支援する仕組み

- ・中学校区における小中のつながりを意識したキャリア教育カリキュラムの作成支援
- ・職場見学・職場体験学習の実施支援

市町村におけるプラットフォーム構築状況（H23～25年度）

	H23	H24	H25	平成26年度の構築数
構築市町村数	8 (10.3%)	25 (32.5%)	71 (92.2%)	76 (98.7%)

#### ② 学校が望む支援と産学官の諸機関・団体が提供できる支援の結びつけ

- ・キャリア教育支援センター総会（年2回）及び3推進部会（福祉体験・農林業体験・就業体験）において学校にできる具体的な支援を検討
- ・長野県経営者協会、長野県商工会議所連合会、長野県商工会連合会、長野県中小企業団体中央会との意見交換により産業界と学校との連携推進
- ・県民文化部、農政部、産業労働部、建設部、健康福祉部等県関係部局との連携による高校生の就業体験の推進

在学中の就業体験活動参加率（全日制高校3年生）	目標値（H25）	60.0%
	成果（H25）	60.4%

## 2 学校・生徒支援事業

### (1) キャリア教育カリキュラムを改革する高校を重点的に支援

#### 【先導的カリキュラム改革支援事業】

・普通科において「産業社会と人間」の充実や新たに実施を考え、学校独自のテキストを作成し、他校への普及を目指す学校を指定

平成26年度指定校 3校

・進学を目指す生徒が、目的意識を深め、課題対応能力等の基礎的・汎用的能力を培うことを意図したカリキュラムの研究をする学校を指定

### (2) 進路目標が明確でない高校生、学校生活に悩みや不適應傾向のある高校生を支援

#### 【社会的自立支援事業】

- ・小集団や学級におけるソーシャル・スキル・トレーニング

### 高校生の就職内定率

年度	H23	H24	H25	H26
内定率	96.4	96.8	97.1	97.8

### (3) 就業体験保険料補助

#### 【ずく出せ修行就業体験事業】

保険料を補助し、高校生就業体験を推進

コース名	内 容	就業体験先	期 間
ずく出せ修行	生徒が希望する職種について行う就業体験	美容院・消防署・病院・商店・動物園・医院・工場・役場・幼稚園・農家等	5日程度
ジョブ・シャドウイング	専門性の高い就業者と行動を共にする	看護師・学芸員・警察官・保育士・教授・救急救命士・建築士・税理士・医師・検査技師等	1～2日
ジュニア・インターンシップ 保険料は公共職業安定所が補助	公共職業安定所を通して行う就業体験	結婚式場・美容院・ホテル・会計事務所・製造工場・福祉施設・飲食店・病院・製造工場等	1～7日

### 就業体験者数

(人)

コース名	H24年度	H25年度	H26年度
ずく出せ修行	6,865	7,331	8,172
ジョブ・シャドウイング			
ジュニア・インターンシップ	400	447	468
合 計	86校 7,265	85校 7,778	85校 8,640

「就きたい仕事がイメージできる」高校1年生の割合	目標値 (H25)	64.0%
	成果 (H25)	64.6%

### 3 子育て理解教育

#### (1) 高校生が、将来の子育てに関する貴重な体験として、乳幼児とふれあう事業を促進

教科「家庭」や総合的な学習の時間等における体験活動の実施

- ・保育所・幼稚園と連携した園児との交流活動
- ・保育所・幼稚園・児童館での行事の運営補助
- ・赤ちゃん触れ合い体験

#### (2) 男女が互いに協力して家庭を築き、子どもを生き育てることの重要性や意義を学習する機会の充実

乳幼児触れ合い体験実施高校数	目標値 (H25)	25校
	成果 (H25)	25校

### 4 未来をつくる協働事業(国庫委託)

○H26年度からの2年間の国の事業で、長野県教育委員会が委託を受け取り組んでいる。H26年度は長野県を含む9地域で研究指定を受けた。

○3校を実践校として指定し、社会参画にかかわる人づくりを行っている。

- ・特別活動、公民科、家庭科等の授業を活用し、シンポジウムや講演を開催し、地域資源の再認識や

教科横断的な教材の作成をする。

- ・地域住民、地域企業、関係団体と連携し、地域の特産物について学ぶとともにそれを活用して地域のコミュニティの活性化につながる実践活動に発展させる取組みを行う。
  - ・授業の中で地域に伝わる文化財について学び、文化財等の効果的な周知・広報、観光資源の有効活用など地域の活性化につながる実践活動に発展させる取組みを行う。
- 地域の抱える課題について、その解決に向け地域の関係者等と連携した体験的・実践的な学習活動の成果発表。

## 5 地域キャリア教育支援協議会設置促進事業(国庫委託)

- ・キャリア教育アドバイザーを活用し、企業での実績や人的関係を活かして企業訪問を行うことで、小・中・高それぞれに対応する社会人講師や企業の教育力を開拓する。
- ・特に大学への進学を希望する生徒が多い普通科高校において「大学の向こうにある社会」を意識させ、大学で学ぶ内容と将来の職業分野との関連について学ぶためキャリア教育支援センターにおいて協力してもらえる講師・企業を積極的に開拓する。
- ・地域、企業と連携をする中で、「アントレプレナー教育の研究」「山間地が抱える課題に取り組む社会参加によるキャリア教育の研究」「地域の人材を生かしたふるさと学習を関連付けたキャリア教育の研究」について指定した、小学校と高校、中学校と高校、小学校と中学校が同じテーマで取り組み、内容の充実を図る。
- ・職場見学、就業体験、農林業体験、福祉体験などの充実のため、学校と地域・社会、産業界をつなぎ、幼保・小・中・高の縦の連携を図るために、キャリア教育アドバイザーを配置し、キャリア教育シンポジウム・キャリア教育弁論スピーチコンテストを開催する。
- ・産業労働部、産業界と連携し、児童、生徒に対し企業訪問、企業体験を実施する企業の開拓をする。
- ・就業体験の受入経験のない中小企業等の開拓をする。
- ・

## 6 今後の方針

### (1) 社会的・職業的に自立した人間の育成のため、キャリア教育を中核とした学習の推進

21世紀を生きる子どもたちは、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力、グローバルな社会を生き抜く力が求められている。

豊かな自然に囲まれ地域との関係が深い本県の特徴を生かし、直接体験や人とのかかわりを重視する幼保・小・中・高の一貫したキャリア教育を今後もさらに推進し、変化の激しい時代を生き抜く力を本県の児童生徒に育んでいく。

### (2) 小・中・高のキャリア教育カリキュラム構築の支援

小中学校の連携については、キャリア教育の学習履歴（キャリアノート）などについて研究を深めてきているが、中高の連携には課題が多く残されている。そのため、中高連携については、すでに連携が進められている地域もあるので県内に普及させていくことを進めていきたい。

### (3) プラットフォームの取組状況の把握と発信

家庭、地域の教育力を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組（プラットホーム）の構築割合は平成26年度、98.7%であり、多くの市町村においてプラットフォームの構築が進んできている。

グローバル化が進む現在、自分の生まれた地域をよく知り、愛着を持つことは国際的に活躍するため必須条件である。地域の子どもは地域で育てる理念を大切にし、プラットホームを活用したキャリア教育の充実を押し進めていく。